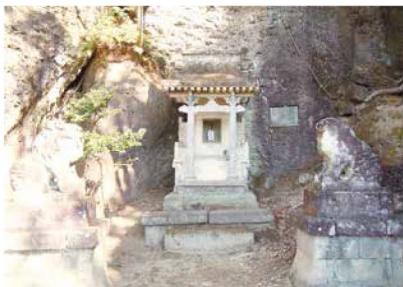


## 石山の守り神「大山阿夫利神社」

宇都宮伝統文化連絡協議会員 柏村 祐司



大山阿夫利神社石祠

大谷街道の終点は、大谷寺であるが、大谷寺へは至らず、大谷景観公園方面へ左折すると程なくして右手岸壁の下部に大山阿夫利神社がある。鳥居をくぐるとちょっとした広場があり、岸壁を背にして祠があり、前には祠を守るように狛犬が二基鎮座している。鳥居も祠も狛犬も全て大谷石製であり、特に祠は木造の祠に劣らないくらい細部にわたって彫刻がなされた立派なもので、いかにも大谷石の产地、しかも大谷石生産に関わる人たちの守り神ならではのものである。

日本人は、田には田の神があり、山には山の神、海には海の神等実にさまざまな神仏を信仰する世界でも稀な民族である。大谷で石材業に携わる人々は、山での安全と大谷石の生産が豊かである事を祈り、各の神を祀つたものである。中には一ヵ所のみならず、主要な採掘現場ごとに複数の山の神を祀る業者もいた。

これに対し大山阿夫利神社は、大谷石石材業者が共同で祭祀した山の神である。祭り日は春秋の二回で、春は一月二十五日、秋は十月二十五日である。平成二十年頃は、まだ昔ながらに祭りが行われ、二月二十五日は、午前中各石材業者が参列の上、祠の前に設えた祭壇に重ね餅・お神酒・お頭つき鯛・野菜・果物等を

供え、神主によるお祓い、祝詞奏上の後に、参列者全員による玉ぐし奉籠と続き、最後に全員でお神酒をいただくることがわかる。

日本人は、田には田の神があり、山には山の神、海には海の神等実にさまざまな神仏を信仰する世界でも稀な民族である。大谷で石材業に携わる人々は、山での安全と大谷石の生産が豊かである事を祈り、各の神を祀つたものである。中には一ヵ所のみならず、主要な採掘現場ごとに複数の山の神を祀る業者もいた。

大山阿夫利神社の祭礼は、大谷石石材業の衰退に伴い近年めっきり寂しいものになった。しかし「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことで、阿夫利神社は、山上によく雲や霧が生じて雨を降らすことが多いとされたことから、「あめり山」とも呼ばれ、もともと雨乞いの信仰から起こうとしたとされる。江戸時代に入ると庶民からの崇敬も厚く、関東各地で「大山講」が組織され俗に「大山詣り」と呼ばれ、雨乞いのみならず、さまざま大山への参詣が隆盛を極めた。



ご本社から受け取った木札

神社が、なぜ大谷に山の神として勧請されたのであるか。そこには大山山頂にある大岩が神の宿る岩つまりご神体として祀られたことと、大山阿夫利神社のご祭神として大山祇神が祀られたことが考えられる。全山岩だらけの大谷にとって大岩に神が宿るとする信仰は、受け入れやすいものがあり、また大山祇神の名は、山の神に相応しいものでもあった。ちなみに大谷に大山阿夫利神社が勧請されたのは、明治時代に入ってからのことと思われる。

大山阿夫利神社の祭礼は、大谷石石材業の衰退に伴い近年めっきり寂しいものになった。しかし「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことで、阿夫利神社にも陽の目が当り出した。雑誌等に瀟洒な祠の写真が時折掲載されるようになつた。

こうした大山阿夫利